

令和3年度 “ふじのくに”^{しみん}士民協働 施策レビュー 改善提案とりまとめシート

1 基本情報

政策	政策2 安心して暮らせる医療・福祉の充実		
政策の柱	2-4 健全な心身を保つ環境の整備		
議論した施策	(2) 自殺対策の推進		
実施日/班名	7月10日(土) 第2班	担当部局名	健康福祉部 障害者支援局

2 コーディネーター取りまとめコメント (コーディネーターが議論を総括して取りまとめ)

自殺対策には、県、市町、県民が一体となって取り組むことが大切である。自殺対策は自殺者数の減少を成果指標とする中、様々な施策と自殺者数の減少との因果関係を立証することは難しいが、因果関係を立証することより、活動指標と成果指標の達成度を常にチェックすることが大事である。

- 自殺相談窓口の周知や、性別、年代別の窓口の設置^①
- 質の高いゲートキーパーを増やす^②ことの難しさ
- 自殺対策の周知にメディアを活用^③。
- 自殺対策の連携組織図の作成と公表^④

総じて議論されたのは「自殺対策のスタートは周りの人の気づきである^⑤こと。」ゲートキーパーに限らず自分たちがその役割を担う。つまり「自分ごと化」が一番必要であるとの意見が多く、県民評価者がその認識を持っていることは大きな成果である。県民評価者からは次のような意見が寄せられた。

3 施策改善案 (県民評価者が記載した改善提案シートの取りまとめ)

- ①自殺の背景は様々であるため、相談者の性別、年代にあった相談対応ができるよう、対応の多様化を進める必要がある。
- ②ゲートキーパーが自殺予防の役割を適切に発揮するためには、ゲートキーパー養成研修の実施やスキルアップを行い、相談者の特性に応じた対応ができるようにする必要がある。
- ③ゲートキーパーや相談窓口等を含めた自殺対策に関する情報が得やすい環境を整備するため、メディアの活用やポスター掲示のほか、SNS等による若者を対象とした広報活動を進めていく必要がある。
- ④自殺対策に関する組織図を作成・公表し、地域や団体、企業等の連携を進め、自殺を考えている人に寄り添った支援ができる体制をつくる必要がある。
- ⑤自殺対策の第一歩は、地域や家庭等、周囲の人が悩みを持った人のSOSのサインに気づき悩みを聞くことであるため、サインに気づけるよう周知する必要がある。